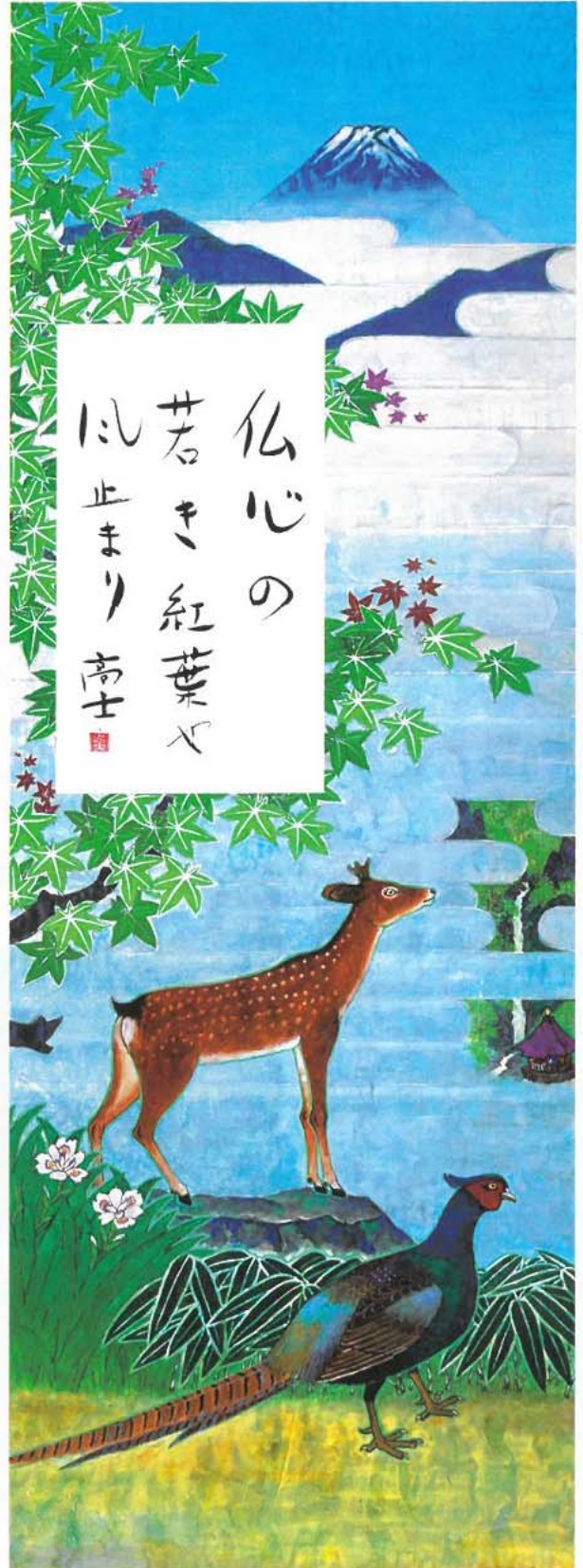


高尾山報

令和2年6月号



仏心の
 若き紅葉を
 止まり高士

「高尾天狗楓回屏風・若葉」

画・橋本豊治
句・星野高士

法の水茎

大正大学講師 高橋 秀城

(96)

梅雨期を迎えて、曇りや雨の日が続いています。日によつては、今にも降り出しそうな梅雨雲が、季節外れの冷え込みを運んでくる場合もあります。皆さまにおかれましては、くれぐれも体調を崩されませぬよう、引き続きご自愛いただければと思います。

つくづく

軒の音を

ながめつ

日をもみ暮らす

五月雨の頃

(西行「山家集」)

「軒先を伝う雨の音を眺めながら、一日中物思いに耽る五月雨の頃であるよ」

この時期に降る長雨を「五月雨」と言います。

歌を詠んだ西行(一一八〇―一一九〇)は、小止み無く降る「長雨」を「眺

め」ながら、どのような心持ちで一日を過ごしていたのでしょうか。初句「つくづく」とは、「手持ち無沙汰で、何もすることがない様子」のほかにも、「心に深く沁み込んで、注意深く見聞きする」という意味もあります。私には「つくづく」という響きに、「ぼつぼつ」という途切れ途切れの雨音も感じられます。西行は、どんなやりとした梅雨空を見上げながら、暗れ間の光をぼんやりと待ち望んでいたのでしょうか、それとも逢えない誰かをひたすら思い慕っていたのでしょうか。

仏教語に「二夏」という言葉があります。旧暦四月十六日から七月十五日までの夏の九十日間を指します。インドの

僧侶はこの雨期に、外出によつて無意識に草木を傷つけたり、小さな虫を踏んだりしないよう、「一つの場所に籠って」「夏安居」という修行に入ります。雨の季節に身を清め、日ごころ積み重ねた罪を反省しながら、神仏に祈りを捧げているのです。

西行には、このような歌もあります。

心憂きは 菅清草

西に思ひの 引かぬなりけり

(西行「山家集」)

「皆さん心苦しく思うのは、端午の節句に合わせて、菖蒲を泥から引き抜くことには気を配るけれど、西方浄土には思いを寄せないことだよ」

端午の節句は、もともとは旧暦の五月五日(現在の六月上旬から中旬)に行う梅雨時の行事でした。西行は、人々が邪気や疫病を祓い、この世での健康長寿



梅雨の時期に咲く紫陽花は雨に濡れ色が濃くなります

折り折りの記

(30)

波多野 重雄

梅雨空に七つ下りの雨が降る

梅雨の季節となる。日本には古来雨が降る様子を分析して予想する言い回しや成語が多い。夕暮れの七つ(午後四時)過ぎに降る雨の事。この雨はすぐには上がらないと昔から伝わる。雨が降るかどうかは、その時期に人の生活や農作業に影響する。「水瓶が汗をかくと雨」「茶碗に飯粒がつかない時は雨」「猫が手水(ちようず)を使うと雨」と面白いはずも根拠があると言ふ。猫が顔を前脚で撫で雨が近づき、湿度が高まると、体毛が伸び、顔の筋肉が刺激される。猫さえ察知する雨の訪れも分らない。検査は、政治の中立性を厳守し、批判の雨を降らせぬ事が肝要である。

(高尾山健康登山の会会長)

思空海(三)

夜修禅 臥眠

朝梵白髪新

読心経秘鍵

求成仏即身

谷響き、
情しませぬのみ、明星を
求聞持成就 空海様は

空海様を思ふ(三)

夜に坐禅を修め、臥し眠る…朝の読経は白髪新たなり…

「般若心経秘鍵」(空海様著作)を精読し、「即身成仏」を

ひたすら求めん…

るのです。

ちなみに、「子は三世、夫婦は二世、主従(師弟)は三世、他人は五世」とも言われるようです。「親子の関わりはこの世限り、夫婦の縁はこの世からあの世まで続き、主従や師弟の契りは過去・現在・未来の三世、他人との関係は五世まで続く」というものです。一見、逆ではないかとも思えるのですが、自分から遠くなるほど薄まりがちな人間関係を、改めて見直さなければならぬという戒め(方便)でもあるのでしよう。

「三世の諸仏」をめぐっては、次のような話があります。

遙か遠い昔のこと。仏さまの名前も聞かない時代に、過去世のことを全て知り尽くし、深い悟りを得た狐がいました。ある時、獅子(ライオン)に追われて逃げ回り、深い穴に落ちてしまいましたが、抜け出す力もないまま何日も過ぎると、

「こうして無駄死にする命なら、飢えた獅子にこの身を与えるべきだったのではないか。慈悲心(情け深い心)もなく、我が身を惜しんでしまったのだ」と、他者に施さなかつたことを悔やんで、「南無三世の諸仏よ、どうかこの心を照らしてください」と唱えました。

すると、その声を帝釈天が聞きつけました。声の主を探して、無数の天人と地上に下つてくると、穴の中の狐が様々に賢い話をしています。帝釈天が「どうか、仏法を説いてください」と話しかけると、狐は「法水(仏の教え)は上から下に流れる。師が低いところにいて、どうやって法を説こうか」と答えました。帝釈天はこの狐の言葉聞いて、自らを深く恥じ、天衣を重ねて高座をしつらえ、狐はその上で法を説いたのでした。この話は、師を敬った過去の先例として「天帝野干を敬う」と言われて

います。

(「沙石集」など) 狐の話の聞いたとき、多くの天人はあざ笑いましたが、帝釈天は違っていました。師もなく、尊大に構えがちな自分が自身を反省し、死を目前に慈悲心を悟った狐に向かつて跪いたのです。日頃からどんなに遠いところの出来事にも耳を傾けていたからこそ、即座に狐の元を訪れ、「三世の仏の師」の教えを聞くことができたのでしよう。

三世の諸仏は、一切衆生を、一子の如く思食し(「平家物語」維盛入水) (一切の仏は、全ての生きとし生けるものを我が子のようにお思いになる) 優しい雨の音は、親子の背中をトントンしているように聞こえます。その温かな慈愛に込めるように、野山の草木も作物も、空に向かってぐんぐん生長しています。(栃木北部教区普濟寺)

高尾山年代記

6

歴代山主の事跡をたどる

五世慶圓1 柗田長井氏の滅亡

中世において、高尾山は柗田郷の西南部に位置していた。和田合戦（二二三）で横山氏が没落した後、柗田郷は大江広元の所領となり、その子孫である長井氏が領有してきた。

長井氏は南北朝の争乱においては足利尊氏に従い、その後は長井道広（氏元）の名が鎌倉府の引付頭人（裁判事務部署の長）として見える。氏元の子が氏広、その子兼広までは鎌倉公方の偏諱を名乗っており、宇都宮、千葉、三浦ら有力豪族と資格は同列であった。兼広の子三郎入道は、公方持氏との対立による関東管領上杉憲実の上野国（群馬県）下向に同道しており、この頃から山

高尾山五世慶圓

天正五年（一五七七）・一七年・一八年付が一括された八世源實から九世源恵へ授与された印信（秘法伝授の証書）に添えられた血脈には、「有喜寺開山俊源僧都」「源廣僧都」「源尊僧都」「智圓法印」の次に「慶圓法印」の名がある。天保四年（一八三三）の「由緒書」は、四世智圓の寂年を応仁二年（一四六八）とするので、ひとまずこの年から寂年の大永五年（一五二五）までが五世慶圓の在任時となる。

さて、葉王院の末寺・門徒寺院の分布について、かねがね気になっている

ことがあった。江戸期における門末一七ヶ寺の内、半数近い八ヶ寺が相模国（神奈川県）に所在している。この内、四ヶ寺は城山湖の北岸、他は現在のJR横浜線の相模駅から橋本駅、そして相模線の上溝駅に至る沿線にある。十二丁目から望見してわかる通り、そのエリアとの間は丘陵に隔てられており、言わば山向こうである。武蔵側の末寺・門徒は柗田・長房といったおむね京王高尾駅以西にまとまる。つまり、高尾山の末寺圏は3つのエリアに分かれて存在したのである。

距離のある相模原市域の寺院とはどのような契機で本末関係が結ばれたのだろうか。ここでは、橋本方面の四ヶ寺について関連の記事を拾ってみよう。『新編相模風土記稿』（一八三二）「高座郡之部」成立）は、上溝村安楽寺の中興を高尾山三世源尊としていた。相原村華蔵院の開基秀

慶は応仁二年の卒と、四世智圓と寂年が同じである。五世慶圓の法名からすると、この秀慶は智圓のことでないかと考えることもできる。僧侶が複数の法名を持つ例は江戸期の史料にもある。また、下九沢村金泉寺の中興は源秀（応永九年・一四〇二卒）によるとされる。一九世紀の史料を元に「四一五世紀の事を論ずる」のは空論に過ぎないかもしれないが、文字の微妙な一致は気になることではある。

山内・扇谷両上杉氏の抗争と長井氏滅亡

さて、この頃の高尾山の動向は全く不明ながら、歴代山主はその周辺における事態の推移を見聞してきたはずである。慶圓が晋山した頃的情勢はと言うと、古河公方足利成氏と武蔵五十子（埼玉県本庄市）の要害を拠点とする上杉一族とが、関東を二分して一進二退を繰り返していた。滝沢

馬琴の『南総里見八犬伝』の舞台がこの頃からしばらくの事で、扇谷上杉定正が敵役として登場する。

そのような中、文明八年（一四七六）、山内上杉家の家宰長尾氏の家督をめぐり、主家への反乱が起きる（長尾景春の乱）。この足かけ五年にわたる反乱の鎮圧に任じたのは扇谷家の家宰太田道灌であった。道灌の活躍により、それまで支流の地位にあった扇谷家は山内家を圧する勢いとなった。

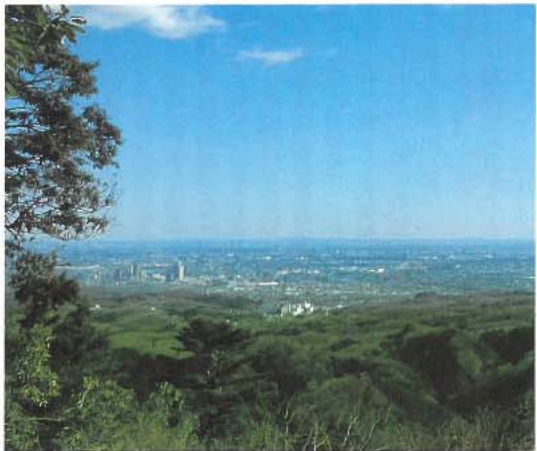
やがて、成氏と室町将軍との間に和睦が成立すると、関東も一時の静謐を得る。ところが、道灌は主の扇谷定正によって誅せられてしまう。謀反の讒言によると、山内方の陰謀とも言われる。これにより子の資康をはじめ多くの家臣が山内方へ流れ、ここに向上杉氏の抗争が始まった（一四八七・長享の乱）。長井三郎入道の子広房は扇谷家の婿であったが、山内方にあっ

た。初めは山内方の攻勢を扇谷方が堅固にはね返していたが、山内方は古河公方と連合、越後（新潟県）上杉氏の援護を受ける。それに対し、扇谷方は駿河国（静岡県）の今川氏と伊豆で勢力を拡張しつつあった伊勢宗瑞（北条早雲）を味方に引き入れる。

長井広房の子広直が永正元年（一五〇四）正月に伊勢宗瑞進出を山内鎮定に注進したことが知られる史料が遺る。鎮定が宗瑞の進出に対し、青梅の三田氏へ柗田城防衛を命じた三月付の書状はこの年のことと推定されている。この南からの扇谷方の攻勢によって、九月、立河原（立川市）にて合戦が生起、敗北した山内勢は北方へ退却した。時期の見解は分かれるが、どうやら長井広直はこれを機に扇谷方へ転じたようだ。十一月になって山内鎮定は実弟の越後上杉家・房能の援軍を得て反転攻勢に出た。この過程

で十二月、柗田城は落城。広直以下一族二〇余人が自害して長井氏は滅亡した。攻城戦の様子は金比羅物見台の眼前、高尾山上から手に取るように見えたことだろう。

扇谷方との最前線にあった長井氏としては、立河原における山内方の敗北によって身の処し方に窮したことであろうが、その決断は凶と出た。長井氏の跡には山内家の宿老大石道俊が入った。



望む野原から相模原市を望む。高層ビル群が目につくが、その周辺には橋本駅周辺の高層ビル群が目につくが、その周辺には葉王院末寺・門徒が点在した。

高尾山末寺圏の形成

相模原市橋本方面の四ヶ寺は、現在の京王山田駅あたりから南下する鎌倉古街道に沿うように立地していることがわかる。古街道の道筋はおおむね都道五〇六号の東側の山間を通り、相模原野に出るところで相原十字路を経て、相原村華蔵院、国道四一三号を東へ行って小山村蓮乗院。さらに南下して下九沢村金泉寺、

上溝村安楽寺に至る。この道程が江戸後期において史料上に確認される。文化六年（一八〇九）『江戸田舎日護摩講中元帳』によると、配札の使者は京王山田駅南側の小比企村から南へ進み、相州町屋村→相原村→小山村→下九沢村→原宿村と回っている。これより東・南方向への檀家分布はなく、明らかにこの相模原野は葉王院の影響が及びにくい方面になつていたと理解できる。江戸時代には高尾山の護摩檀家はおおむね富士登山に甲州道中経由で向かう地域に分布する傾向にあり、相模方面の分布は末寺圏の一面のみである。それならば、何故この方面に末寺が分布するのかということになる。

実は長井氏の所領は柗田郷から南へ北相方面にかけて広がっていた。長井氏の館は京王山田駅北側の広園禪寺近くに在ったとされる。同寺は長井氏広の開基である。

長井氏ゆかりの寺院は柗田川に近い初沢の高乗寺、神奈川県座間市の常楽寺があり、何れも所領の中心に位置していたと考えられる。この間をつなぐルートが先の鎌倉古街道である。

当時の所領形態は、閉じられた空間としてその範囲で人と物資の往来が完結していたわけではなかったが、長井氏による鎌倉府との往来から、あるいは長井氏所領内の移動による柗田郷と相模原野北部の往来という交流のあったことが想定される。長井氏ゆかりの寺院は臨済宗なので、長井氏の影響が直接葉王院の末寺形成に結びつくわけではないものの、現在の横浜線・相模線の沿線は中世において地域間の密接な連絡路であったことにはなる。

《参考文献》黒田基樹編『戦国期山内上杉氏の研究』（岩田書院、二〇一三）、『新八王子市史』通史編中世（二〇一六）

おはなし散歩道

荷駄屋の伝兵衛

湯沢町 富樫あい子

生糸を八王子から横浜港に運ぶ道は「絹の道」と呼ばれていた。

八王子の荷駄屋の伝兵衛は、生糸運びに忙しい日々を送っている。「わしは高尾のお山に駆け足で登り商売繁盛と健康を祈り、月参りをしてるお陰じや」

足腰の強さは八十歳には見えない。

ある晩、横浜からの帰り道、鍵水村の絹商に呼び止められた。「明日の船に乗せたい生糸を、どこの荷駄屋も断るのだ。頼みます！」

絹商の番頭が伝兵衛に泣きついてきた。鍵水村は八王子と横浜の中間にある。量からしても一日では無理だ。

仕事を断る事のない伝兵衛が頭を抱えた。「明日、船に乗せない」と

取引が中止になる。助けてください。お願いします」

絹商はケチで支払いの悪さは荷駄屋仲間でも悪評だった。だが番頭の必死な願いに心優しい伝兵衛は夜空を仰ぎ、「夜八時出発の船か？」

「はい、恩に着ます」番頭はひれ伏した。すぐに荷造りを始めた。翌朝、荷物は順調に運んだ。伝兵衛が大声で、「これが最後の荷だな」

「はい、私も行きます」番頭も港に同行した。絹の道は荷駄の重みで腕状に窪んでいる。鍵水峠を越えて大栗川にさしかかった時、突然牛が暴れ走り出した。

「待て！ 待て！」伝兵衛は荷を引く牛を追い掛けたが、荷駄は坂道を転がり大栗川に落ちた。慌てた番頭は、「生糸が助けてくれ！」と叫びつつ、気を失った。

すると川底から大波が湧き上がり荷駄を飲み込んだ。伝兵衛は恐ろしく震え、体が動かない。「もし…」女の声だ。

伝兵衛が振り向くと、水神の祠がある川淵に生糸を持つ娘が立っている。「私は淵の主、織姫です。鍵水村を守る水神様に絹織物を奉納したいが、生糸が足りないのです。少し分けて下さい」

伝兵衛は上品な娘の美しさに見とれた。あたりを見ると、暴れた牛が元の姿で川の水を飲んでいた。娘は話を続けた。「昔、村人は商売繁盛と祈り、水神様に生糸を供えたが、今は誰も供えません。織る生糸が無くて困っています」

「そうか…人は苦しい時の神頼みというが…これをお使い下さい」伝兵衛はつぶやき、荷駄から生糸を差し出した。

するとお礼にと娘が「巾着」をくれた。

「困った時、巾着を開き、話して下さい…きつ」と言い残した。伝兵衛がいただき頭を上げたら娘の姿はなかった。

「返せ、その銭袋！」正気付いた番頭が、伝兵衛の巾着を取った。「なにをするか！」

伝兵衛が取り返した。番頭は懐から銭袋を探り出した。同じ菅蒲柄だ。それを見た伝兵衛は、今起きた事をすべて話した。

すると、番頭がおもむるに語り出した。「昔、絹商の娘が機織り好きでした。ある日突然、



いなくなり、方々探したが見つからない。旦那様は病に伏したまま…皆は神隠しだ。娘は川淵の主になったと言われ、私は、店を畳む事ばかりを考えていた。菅蒲柄は確かに絹商だけの家紋です。勇気が出ました。もうひと頑張りします」

番頭の顔が明るくなった。伝兵衛は励まされた。「この巾着はお前にやる。水神と娘を守って、絹商を盛り上げてくれ。まだ船には間に合う」

二人は、横浜に向かつて荷駄を走らせた。(元)

(挿し絵・小出 茂)

奪われた恵み

シャンソン歌手 友納あけみ

昨日の嵐のような雨から今日は打って変わって青空が広がっています。白肅が続き、経済活動が縮小されているせいか、空気がいつもよりずっと澄みきっていて穏やかな陽射しが一杯に溢れています。全部、夢だったら、また、あの日常に戻れたら…

ぼーっと遥かに見える雪化粧した富士山を眺めながら、戦争や災害の被害者の方たちの言葉が初めて当事者となってわかる気持ちです。本当に思いもよらないことが起こるんだと！ 私達の仕事は全てキャンセル！失業中です(笑)



毎日、家で過ごす日々！ザワザワと落ち着かず何も手につかない中で、五月に予定していたコンサートをどうするか？決まらずにはならず、こんな時にこそ、頑張つてやらなくちゃ！良い音楽や時を届けたい！何とかが頭張らなくちゃ！と始めは思っていました。こんな中でもチケットをご購入頂き応援して来てくださる方達の為にも、それからイベントが全てキャンセルになってしまった。ずっと私を支えてくれていたスタッフやミュージシャンの為に、赤字を背負ってもやるつもりでした。

ただ、だんだん世界中から、とんでもない状況が聞こえてきて、日本も後を追うように感染は広がって、コンサートどころか、歌うことさえ出来ない日々が始まりました。暫く、収束が来るのではと願っていたのですが、聞けば聞くほど、知れば知るほど、これはかなり長期戦になりそうなのかわかりました。とりあえず、五月に予定した友納あけみコンサートを十月へ延期することを決めました。とても残念で、暫し深く落ち込んだのですが、いろいろ考え直して、コロナ騒ぎが収まったら、世の中は傷だらけ！その時に良いエネルギーを届けられるよう！神様からもらった時間だと思い、音楽に集中してブラッシュアップを目指そう！と自分なりに言い聞かせています。コロナウイルスは私達からいろいろなものを奪ってしまいました。人と人との触れ合い、いたわりあい、話すこと、歌うこと、笑いあうこと、踊ること、抱き合うこと、働くこと、共に食卓を開くこと、杯を交わすこと、みんな人間だけに許されていた恵みだったのに、当たり前と、高をくくり、蔑ろにしてしまっていたと奪われてみて、改めて思います。

厄年を過ぎた

御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら 一年・二年を

七十才を過ぎたなら 暑さ・寒さを

八十才を過ぎたなら 春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら 一日・二日を

気を付けられ

日々を大切に 圓滿にお暮し下さい

当山では皆様の

(身体健全) (寿命長久) を祈念して

福壽圓滿の

御護摩を

お申し受け致しております。

観音菩薩の宗教

30

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

二十一ターラー菩薩を讃える経典 (その5)

前回に続いて「二十一ターラーへの讃」の訳出と解説を行う。

- (101) (汝ターラーを) 賛嘆(する)。ひ たすに喜びを輝かせる(と)。(ターラーの)寶冠(の)光の珠鬘が弘まる
- (102) 笑い微笑む(マントラの)トゥッタレーによりて
- (103) (ターラーは) 魔と世間の神々を 征服する

(解説) この詩節では、ターラーより放たれる光や笑いが魔の世界を抑えることを唱えている。(10)寶冠はサンスクリット

ト語で Mukuta と男性名詞であるが、ここではターラーが女性であることから、女性形 (mukuta) になっている。

チベット語では dbu rgyan。寶冠は頭にかぶる飾りや冠をいう。珠鬘はサンスクリット語で マーリン(mala)。チベット語では phreng ba と訳される。花輪や数珠を意味する。ここでは、ターラーの冠から放たれる喜びに満ちた光の功徳を述べている。(103) マントラはチベット語訳では トウッタレー (tutara) とあるが、ここではサンスクリット語原文 (tutara) に従った。(104) 魔は (81) に同じ。

サンスクリット語原文では、「魔と世間を征服する (mara loka vasam-kari)」であるが、チベット語訳では「世間の主 (jig rten dbang phyug)」と補っている。ウイリソンはこれを「神々 (devas)」としている(前掲書、pp.141, 361)。世間の主は観音菩薩の別名でもあるが、これをターラーが征服するのは奇異であるから、ウイリソンなどに従った。

漢訳では、「敬禮威徳歡悅母／寶冠珠鬘衆光飾／最極喜笑暗恒哩／鎮世間魔作攝伏」とある。Sはその名を「悲哀を晴らすターラー (Tara Soka-vinodani / sgrol na nya ngan sel byed na)」とする。悲哀の原語のシヨーカ (Soka) に否定の接頭辞 (a) を付けることでインドを統一したアショーカ (Asoka) の名で知られ、「悲しみを起こさせぬこと、幸せ」などを意味する。Nは「三界の勝者たるター

ラー (Tara Trailokavi-jaya / sgrol ma jig rten gsum rgyal)」と称する。

- (11) (汝ターラーを) 讚歎(する)。(ターラーは) この世を守護する主たち

(12) とその家来すべてを 惹き寄せることができる

(13) (ターラーは) 眉を動かして、フームの首飾により すべてを災難から 完全に救う

(14) (解説) (11) (12) の世を守護する主とその家来すべては、サンスクリット語でサマンタ・パー・パラー・パタラ (samanta-bhu-pala) サマンタは「すべての」、パー・パラーは「大地の守護者」などを意味し、「国王、王子」を表す。家来はサンスクリット語でパタラ (patala)。チベット語訳も「大地の守護

者たち (sa gzhi skyong bai tshogs rams)」とする。(11)「眉を動かす」はサンスクリット語で「眉を震わす (calad-bhruktu)」。漢訳では以下に見るように「眉を擡める」。(14)「災難」はサンスクリット語で「災難・不運・困難」を意味する apadha から訳した。

漢訳では、「敬禮守護衆地母／亦能鉤召諸神衆／搖擡眉面咩聲字／一切衰敗令度脫」とある。Sでは、「すべての人を惹きつけるターラー (Tara Jagad-vasi / sgrol ma jig rten dbang sldud ma)」とし、「すべての人を惹きつけ彼らの不幸を払うターラー (Tara Jagad-vasi rjisa-nirvahan / sgrol ma gro ba kun gugs phongs pa sel ma)」と付けられる。Nでは、「富を授けるターラー (Tara Vasuda / sgrol ma nor stier ma)」と呼ばれる。富を授ける

因として、このターラーが大地と関連することが挙げられる。大地はすべてのものを産む因であるからである (Khenchen Palden Sherab, Khenpo Tsewang Dongyal 前掲書)。

S系の解釈においてその尊容は、怒髪天を衝く忿怒形で表される。

- (121) 髪(の)ふさ(に)載せた(三日月(型の)寶冠(は)燃え立つ(ごとく)輝く)
- (122) 頭髪(の)塊(における)無量の光明(は)Amithaba(か)ら
- (123) 常に光明(が)輝いて

(解説) (12)「髪(の)ふさ」は、サンスクリット語 stikhandā の訳語。「三日月」は同じく khandānu の訳語。両語は「髪(の)ふさの三日月」のように複合語として表現されているので語を補って和訳した。

チベット語訳では、「月」の部分によって(くられた)寶冠(は)」。サンスクリット語原文では次の行に表れる「寶冠」が文法上、この行に出ている。(122)「寶冠」は(102)同様、サンスクリット語で Mukuta (mukuta)。チベット語で dbu rgyan と訳される。菩薩形であるターラーは冠や璎珞等、しばしば多様な装飾品を身に付けている。(123)チベット語訳の「無量の光明 (od dpag med)」はサンスクリットのアミターバ (Amitābha) の翻訳。チベット語訳仏典では、固有名詞や尊格も音写・借用せず形態素分析して翻訳することが多い。漢訳でいえば、阿彌陀如来が音写で、無量光如来が翻訳である。なお、原語がアミターユス (Amitāyus) のときは無量寿と訳される。

この詩節では、ター

ラーが頭上の冠に化仏として阿彌陀仏を載せていることを説いている。化仏とは変化身のことである。尊格の本地仏を示す。すなわち、このターラーは阿彌陀仏の化身ということである。これまで見たようにターラーは観音菩薩と密接に関連するが、ここでは阿彌陀仏の化身たることを説く。その観音菩薩自身も、化仏を付けることがインド各地の作例に見られ、ここに説かれるターラーと同様、その髪形は高く冠のように結い上げる髪髻冠 (jatamukuta) とされる(宮治昭「仏像学入門」春秋社、一〇六頁など)。

安藏の漢訳では、「敬禮頂冠月相母／冠中現勝

妙嚴光／阿彌陀佛髻中現／常放衆妙寶光明」とある。

Sでは、「めでたき光のターラー (Tara Mangala-aloka / sgrol ma bkra shis snang ma)」もしくは「利益を与えるターラー (Tara

Kalyāna-dā / sgrol ma bkra shis stier ma)」とされる。Nでは「めでたき富のターラー (Tara Mangalārtha / bkra shis don byed)」と呼ばれ、「授けや請雨に功徳あると信せられて」。



十一詩節のターラー像。眉を捻らし怒髪天を衝く忿怒形を示す (Wilson, In Praise of Tara, Wisdom Publications London, 1986, p.143-44)

高尾山小物語 26

高尾山と神仏分離令

絵：橋本豊治



神仏習合とは、仏(本地)が、仮の姿として神の姿(垂迹)で現れているという「本地垂迹説」に基づいています。明治時代以前は、社殿において仏様を祀り、寺院が神社の管理を行うことが珍しくありませんでした。

江戸時代が終焉を迎え、明治時代を迎えると、明治新政府は神道を国教とする為、神仏分離令と呼ばれる一連の政策を実行しました。

当時の高尾山にも、不動院前の一之鳥居や、飯縄権現堂(御本社)前の二之鳥居があり、境内には鳥居をそなえた各お堂がありました。

寺院として存続することを決めた高尾山は、分離の指令に従う為、一之鳥居、二之鳥居を破却し、御本尊様を「飯縄善神」後に「飯縄不動」と改称しました。

しかしその後、政府の方針転換があったため、「飯縄大権現」の名前を取り戻し、大正期には二之鳥居が再建されました。そのため、現在でも飯縄権現堂付近では神仏習合の伝統を感じられます。

かけたる恩は
忘れるがいい
受けたる
恩は忘れない

院内散歩 40

薬王院の展示物



木版画 『平等院 藤』 作：井堂雅夫

いけばなの心④

華道教授 佐藤 宗明

皆様、こんにちは。六月に入り、夏らしい日が多くなってきました。梅雨入りもまもなくでしょう。はじめとした時期に入りますが、瑞々しい植物が美しい時期でもあります。今回は、かきつばたを使った作品を紹介致します。

かきつばたは「杜若」「燕子花」といった字を書き、昔から親しまれてきた花材の一つです。昔から伝わる花材では珍しく、年間を通して生けられる花です。全く同じ形を生けるのではなく、その季節の自然に学んだ姿を生けあげていきます。何回生けても同じ作品にはならないと言うのが、いけばなの魅力の一つです。今回生けたのは『生花(しようか)』という生

け方の中でも、『魚道生(ぎょどういけ)』という生け方です。通常、正面から見た時に一株に見えるように生けるのが生花(しようか)の約束なのですが、これは株を

二つに分けて生ける手法です。その株と株の間を文字通り魚が通る道と見立て、池の畔にいる風情を表現しています。この生け方は、暑い時期にしか生けません。季節を感じ、それに合わせて生け方も変えて行く、四季の変化に慣れた日本人が持つ、季節の雅な楽しみ方ではないでしょうか。



花材…かきつばた

高尾山秀峰会各行事 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策のため、高尾山報四月号において実施の延期を、お知らせしておりました左記の三行事に対して、感染症の終息への先行きが未だ見通せないことから、やむなく中止とする事を決定致しました。

- 高尾山内八十八大師巡拝(春)
- 第百十七回 高尾山信徒峰中修行会(夏)
- 第十七回 高尾山子供やまぐし 修行体験会

参加をご検討頂きました皆様には心苦しい限りではありますが、何卒ご理解の程 宜しくお願い申し上げます。

富士登拝修行並びに 代参守中止のお知らせ

四月号のご案内しております「富士登拝修行 代参守」につきましては、現在発生している新型コロナウイルス感染症が拡散している状況と、富士山の登山道が閉鎖となっている状況を受け、協議の結果、今年の登拝修行並びに代参守の、お申し込みを中止すること致しました。お申し込みをご検討いただきました皆様には、急なご案内となりご迷惑をおかけしますが、ご理解頂きますようお願い申し上げます。また、ご不明な点やご質問等ございましたら、富士事務局までご連絡ください。

高尾山 季節散歩

暦の言葉
「七十二候」
梅子黄
「うめのみきばむ」
六月十六日〜六月二十日頃
梅は梅雨の時期となると黄色く色づき熟していきまふ。
一説には、梅雨とは「梅の実が熟す頃の雨」から名付けられたと言われておりまふ。
梅の実には暑い季節の疲労回復や食欲増進などに効果があり、古代から食されてきまふ。

今月の風物詩
玉蜀黍
トウモロコシは世界中で食され、米や麦と並び、三大穀物の一つとされることもありまふ。
アメリカ大陸原産で、日本には戦国時代末期にポルトガル経由でもたらされまふ。
現在では人間の食用として幅広い用途に加え、家畜の餌やバイオエタノール燃料の原料となつておりまふ。

健康登山者投稿作品

季節の写真「吸蜜するチョウ」

八王子市 高岡輝幸 様



一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きまふよう

八十九段 **失敗は失敗と気持ちを切り替える**

失敗したからといってただ落ち込んでいることが本当の失敗です。大切なことは気持ちを切り替えて次の機会を目指して諦めないことです。失敗の原因を反省して改めることが出来れば、成功へと繋がるかも知れません。

健康登山者投稿作品

高尾山トピック

八王子市 黒田 日出夫

高尾山への登山は三十代の頃から始め、四十年間をかけて今年の一月中で七千回登ることが出来まふ。
当初は山岳レースやマラソン大会に備え、九住復したこともありまふ。定年後には脊柱管狭窄症でレース参加を断念し、健康登山を始めまふ。
健康登山者の方々から優しいお声がけを頂き胸がキーンとしたり、四季の草花の名前や場所などを教えて頂いたりして、季節を感じてゆつたり走ることが楽しみに変わりました。
また、私が卒業した浅川小学校、浅川中学校時代の先生やクラスメイト数名が健康登山をされており、励みとなつておりまふ。
登山当初から変わらな

い楽しみは山頂から望む富士山で、きれいに見えた日には一日中爽やかな心持ちで過ごせまふ。
心残りなことは、薬王院で出会う幾人かの職員さんに励まされておりましたが、退職されてしまいい長年のお礼が出来ていないことです。
登山の最中に救助する機会にも数回出遭つたこともありまふ。歩けな

くなつた方を背負つて下山したり、心臓マッサージやAED(自動体外式除細動器)を行い、消防への緊急連絡もまふ。携帯電話がない時代には登山口まで全力で走り、近隣のお店などで電話をお借りして消防に連絡したこともありまふ。
今後歩ける限り高尾山に登らせて頂きますので、宜しくお願いまふ。
左の絵手紙は健康登山者の瀬戸様御夫妻が私をモデルに書いて下さつたものです。御夫妻には草花のご指導や、絵手紙を頂いておりまふ。



侍衣装を着た慶賛会の皆様

慶賛会 入会のすすめ

もともと仏教語で「慶賛」とは、仏教寺院堂塔などの新築、修繕を祝賀する意味でありまふが、高尾山慶賛会は、高尾山古来から伝承され、年中行事を賛助し、御本尊・飯縄大権現様を尊信し、地域社会の親睦を図ることを目的としておりまふ。
高尾山は現在ミシラン三ツ星を頂き、「心のふるさと祈りのお山、世界に冠たる高尾の自然」と称せられ、多くの参拝者が来られています。ぜひとも茲に広く高尾山慶賛会を募り、ご加入ご協賛を頂き、ご本尊様の威神力に浴されまふよう祈念するものであります。

年会費 一口五千元
詳細は高尾山慶賛会事務局にご連絡下さい。
〇四二六六一―二二五

◎健康登山の皆様へ
高尾山報投稿の御案内
御護摩受付所では、皆さまの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの心温まるお話を聞かせて頂いていまふ。
そこで、皆様のお話を多くの方々に届けまふますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、「高尾山報」に掲載させて頂いておりまふ。
その他、おもしろい体験・変わった出来事・ボエム・俳句等どんなお話でも結構です。是非お聞かせください。御協力宜しくお願い致します。
※投稿頂きました作品は全て掲載できるような努めまふが、当山の判断で掲載しない場合もありまふ。また、多くの方に投稿頂きまふ場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

「高尾山健康登山の証」のお勧め
年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。
登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五十万人の方々で会員となられておりまふ。
期限はございませんので、御自分のペースでお楽しみください。
また、一冊に付き二十一回スタンプを押すペーががあり、終了したことを満行と言います。満行されまふすとお祝い膳として、精進料理の御接待や、健康登山者限定の記念品などと交換もできます。



帳面……………七百元
スタンプ…百円



高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。

お護摩修行とは、護摩木という特別な薪を大導師が御護摩の炎の中に投入し、あらゆる煩惱を焼き浄めるために行われます。そして、御信徒の皆様への祈りが御本尊に届けられ、皆様の諸願が成就するという修行であります。

御護摩修行を行った方には、御護摩札が授与されます。

大切にお持ち帰り頂き、お供物と共に自宅等に奉安礼拝して、一心に御宝号「南無飯縄大権現」とお唱え下さい。

お護摩修行のおすすめ
皆様の諸願成就を祈願する

郵送御護摩
申し込み受付について

高尾山では大本堂に於いて、毎日御護摩修行を行っております。遠方にお住まいの方や、感染症流行によりお参りできない御信徒皆さまのために、御護摩札の郵送も受け付けております。

手紙、FAX等での申し込みをお願いしておりますが、高尾山薬王院の公式ホームページ内にあります「御護摩祈禱の御案内」からも、直接お申し込みすることが出来ますので、こちらも併せて御案内申し上げます。

ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

お問い合わせ先
TEL 042-6611115
FAX 042-6641199
「郵送御護摩」まで

高尾山のお護摩札とお供物



交通安全 (ステッカー) (車内用札) 最大巾8.0×長さ12.5cm (大) 10,000円 (中) 5,000円 (小) 3,000円

お護摩 3,000円以上

お護摩 5,000円以上

お護摩 10,000円以上

特別大護摩 30,000円以上

開帳大護摩 50,000円以上

特別開帳大護摩 100,000円以上

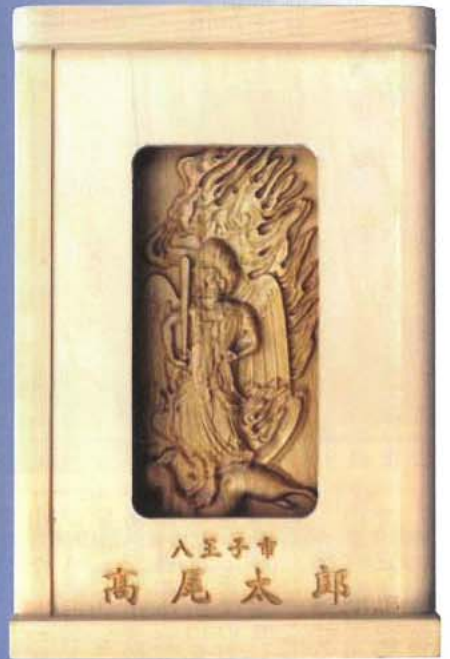
- 家内安全(家)
 - 商業繁昌(商)
 - 事業繁栄(事)
 - 交通安全
 - 車内用札(車)
 - 交通安全(不)
 - 神棚用札(不)
 - 身上安全(身)
 - 災難消除(災)
 - 厄除(厄)
 - 身体健全(体)
 - 当病平癒(病)
 - 開運(開)
 - 良縁成就(縁)
 - 安産成就(安)
 - 入学成就(入)
 - 心願成就(心)
 - 御札(札)
 - 奉納杉苗(杉)
- お護摩の願事
お願い事は一件一願意とします。
- 併願(二願意)は一万円より受け賜ります。
- 但し、五千円以内で家内安全と商光繁昌のみ併願とさせていただきます。
- お護摩札には社令・生年月日等は入りません。

御本尊・飯縄大権現様との御縁を深める
大本堂内結縁「内陣御納佛」奉安のご案内

高尾山では、御信徒様と高尾山御本尊・飯縄大権現様との益々の御縁が結ばれますように、大本堂内陣に御本尊様の御魂を宿した「内陣御納佛」の奉安を皆様にお勧め申し上げます。

お申し込みになりますと、御納佛との尊い結縁のしるしとしてご芳名を刻み、大本堂内陣壁面に奉安され、幾久しくご繁栄を祈念するものであります。

また、御納佛が壁面に満たされますと、その都度、内陣格子奥に移し大切に安置されるものであります。



高さ13.5センチ 横幅9センチ

御納佛冥加料 一体 五万円

高尾山写経大会
実施延期のお知らせ

本年の七月二十六日に開催を予定しておりました、高尾山写経大会につきましては、新型コロナウイルスによる感染症流行が完全に収束する見通しが立たない情勢を鑑み、日程に延期しての実施を検討しております。

参加をご検討頂いておりました皆様におかれましては、ご理解頂きますようお願い申し上げます。

尚、実施の詳細につきましては、高尾山報の来月号にお知らせさせて頂く予定です。ご不明な点などございましたら、お電話にてお問合せ下さい。

| | | |
|--------------|--------|------------|
| 高尾山報助成金志納者 | いわき市 | 松山 |
| 御芳名(順不同・敬称略) | 佐倉市 | 森 尚美 |
| 相模原市 | 遠藤 恵子 | 八王子市 |
| 八王子市 | 瀬沼 ミヨ子 | 足立区 |
| 大田区 | 金子 毅 | 比企郡 |
| 杉並区 | 清水 佐 | 高橋 清 |
| 八王子市 | 齋藤 太 | 比企郡 |
| 新都市 | 高橋 久子 | 高橋 清 |
| 台東区 | 佐伯 明恵 | さいたま市 |
| 八王子市 | 吉田 美枝 | 駒ヶ根市 |
| 南房総市 | 徳 蔵 | 羽生市 |
| 本庄市 | 北村 久子 | 神戸市 |
| 山口市 | 竹村 啓 | 品川区 |
| 八王子市 | 吉田 企徳 | 高尾山健康登山者一同 |



登山だより

七月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

一日、十三日、二十五日

弁天様御縁日

六日、二十日

御詠歌勉強会

(十時山麓不動院)

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十二日

お施餓鬼大法要

二十一日

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

(九時大本堂)

二十六日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

☆神徳報謝百味飲食供

高尾山御本尊飯繩大権

現様の日々の御加護に感謝し、沢山の御供物を捧げて御本尊様威光倍増の為に御供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は大本堂までお申し出下さい。

毎月二十二日午前九時勤修御志納金 一口三千円以上

※本年のお施餓鬼につきましては、感染症予防の為に檀信徒の皆様には参列をご遠慮頂きまして、当山の僧侶のみにて厳修させて頂きます。

お申し込み方法などの詳細につきましては、後日御連絡させて頂きます。

毎日の お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分
" 9時30分
" 11時00分

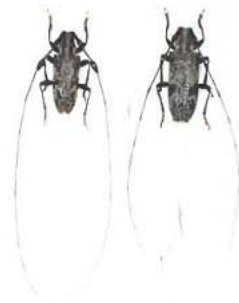
午後0時30分
" 2時00分
" 3時30分

ご講中・団体等御相談下さい。

高尾山の昆虫

セミスジゴブヒゲカミキリ

カミキリムシの中には著しく触角が長い種が少なくなく、優に体の倍くらいある者も多いです。



セミスジゴブヒゲカミキリのオスの触角は体長の三倍以上あり、ヒゲナガカミキリの仲間のヒメヒゲナガカミキリに大きさや体色がやや似ていますが、オスは触角の第一節と第三節が瘤のように膨らみ容易に区別することができます。

これがゴブヒゲカミキリの由来になっていますがメスはオスに比べ触角が短く、第一節のみが瘤状となるだけが、第三節には現れません。

本種は、各種の広葉樹や針葉樹に付き、クリの枯れ枝を叩くとよく落ちて来ます。高尾では灯火にも集まりますが、オスよりもメスを見かける方が多く、触角が折れている個体が目につくのは、長い触角を持つ種の宿命なのかも知れません。話は戻りますが、ゴブヒゲの名の由来は分かったものの、セミスジの方の語源が私にとっては長い間謎でした。

スジは筋のことと思いましたが、セミの意味が分からず、英語の semi(半分とかややの意味)と和名の合作も違和感があり、前胸にやや分り辛い三条の縦筋があることに気が付き(背三筋瘤鬚天牛)であったのかと胸のつかえが取れました。

(標本・小畑 裕 撮影・文松島 孝)

◆訂正とお詫び

先月号「高尾山年代記」中の十一ページの第五段三十行目にあります、「常福寺城」を「浄福寺城」と訂正させて頂きます。

茲に謹んでお詫び申し上げます。



◆月例写経会

中止のお知らせ

六月二十七日に予定されておりました、月例写経会につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止させて頂きます。

ご理解を頂きますようお願い申し上げます。

高尾山薬王院ホームページ
<http://www.takaosan.or.jp>

発行所
東京都八王子市高尾町2177
大本山
高尾山薬王院
郵便番号 193-8686
電話(042)-661-1115(代)
FAX(042)-664-1199
発行人 菅谷秀文
編集人 渋谷秀芳
印刷 ヒラツカ印刷社
毎月1回1日発行
1部50円